

## 第 88 号

令和4年1月20日 発行

## 茶業会議所広報

発行所

(公社)静岡県茶業会議所

静岡市葵区北番町 81 番地

電話 (054)271-5 2 7 1 (代)

FAX (054)252-0 3 3 1

http://shizuoka-cha.com/

## ● 「お茶とマインドフルネス」への取組をスタート ●

長期戦となっているコロナ禍において、緊張感が続き、安堵する間もない日々が続いています。こういう時期だからこそリラックスし、自分を整える時間を大切にしていくことが見直されています。そこで「お茶×マインドフルネス」をテーマにして、新たな消費者への需要拡大、販路拡大を目指しています。（「マインドフルネス」とは、今この瞬間に目の前のことに集中することをいいます。）日本茶は、覚醒効果のある「カフェイン」とリラックス効果のある「テアニン」のどちらも含む稀有な飲み物であるという特徴を活かし、ヨガや写真などと「お茶」を掛け合わせ、ニュートラルな状態に身体と心を整えます。お茶の多様性を広げ、新たな魅力の発信と新たな販路拡大に繋げていきます。

## 【茶業に関わる女性を中心とした「茶W」プロジェクトの発足】

販路開拓セミナーや意見交換、交流により、お茶の販売促進に向けて新たな発想を生み出していきます。「新商品作りへの新発想」、「お茶のリラックス効果」などをテーマにセミナーの動画を配信中。（詳細は当会HPにて）

## お茶×マインドフルネス体験



## ● 国庫事業【持続的生産強化対策事業】●

静岡県は平坦地から山間地にかけて各地域の特性を活かした良質な茶生産を行ってきました。効率化や大量生産が困難である山間地において、特に香りや滋味に特徴を有する産地である「山のお茶」という点に注目し、魅力を最大限に引き出す茶の淹れ方や産地映像、料理に合わせるペアリングを実施し、さらに情報をデジタル化し、付加価値をつけた商品を開発・提案することで需要を創出するよう進めています。



## ● 国庫事業【販路多様化緊急対策事業】●

将来のインバウンド需要や輸出拡大に対応できる生産・供給体制を確保し、県内全域の産地ごとに特徴のある静岡県茶産地の維持発展を図るため、当事業を活用しました。静岡県内の多様なお茶（リーフ茶）について県内の全小学校などを対象に配布を行い、学校給食等への提供を進めました。お茶の効能効果や煎れ方などをホームページに掲載し、先生方に活用していただきました。

茶学術研究会と静岡県茶業会議所の  
共催によるWEBセミナー

「お茶の抗ウイルス性とストレス緩和－with/afterコロナ時代を生きる－」の動画をYouTubeにて配信しました。どなたでも視聴可能です。

下記URLからご視聴ください。

配信期間：2021年11月15日～

①講師：静岡県立大学 鈴木 隆 先生  
【新興ウイルスの脅威と茶の効果について 前半】  
<https://youtu.be/frOd-V0Vjro>

【新興ウイルスの脅威と茶の効果について 後半】  
<https://youtu.be/EEbtT58z71Q>

②講師：静岡県立大学 海野 けい子 先生  
【緑茶テアニンのストレス緩和作用について】  
<https://youtu.be/lqaNqK-C-4>

新興ウイルスの脅威と  
茶の効果について

静岡県立大学名誉教授  
茶学部客員教授  
鈴木 隆



## 茶成分の抗ウイルス作用

茶学術研究会 2021年度シンポジウム  
お茶の抗ウイルス性とストレス緩和  
－with/after コロナ時代を生きる－緑茶テアニンの  
ストレス緩和作用について

2021年11月

静岡県立大学  
茶学術研究会センター  
客員教授 海野けい子



緑茶に含まれる成分が新型コロナウイルスを不活化するという研究成果が国内で発表されていることから茶業に関わる方々の関心は非常に高まっています。お茶の機能性を分かりやすく消費者へ広く発信するため、ポスターを作成し、会員の皆様へ配布しました。

今後の臨床研究や疫学調査による検証に期待しています。



## ◆ 令和3年度予算 ◆

令和3年度の茶業振興費については、下記のとおりです。

### 1 茶業振興費の徴収

茶業振興費の徴収方法は、従価制とし、茶業会議所・会員及び茶業会議所が徴収を委託した(株)静岡茶市場が徴収する。

### 2 茶業振興費の負担額

(1) 生産割 売り手（生産者）が負担し、徴収者に預ける。

粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.1%

(2) 宣伝割 売り手（生産者）、買い手がそれぞれ負担し、徴収者に預ける。

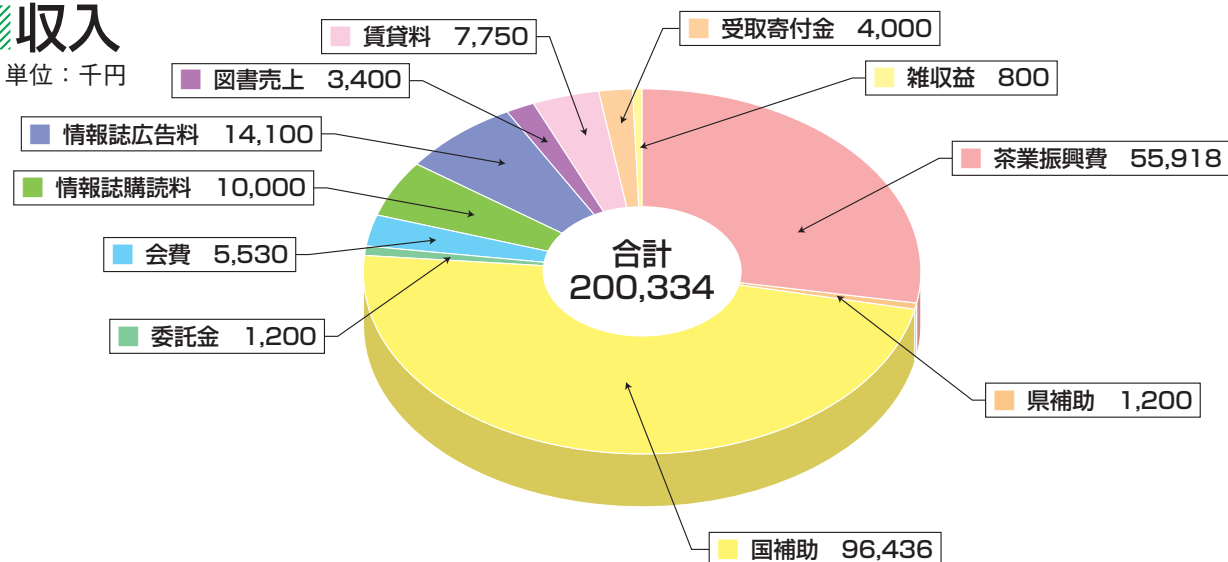
売り手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.18%

買い手負担分：粉引後の荒茶取引額（荒茶受渡数量×単価－粉引額）×0.18%

■ 皆様の茶業振興費は、このように使われます。(R3.3.19 理事会で承認)

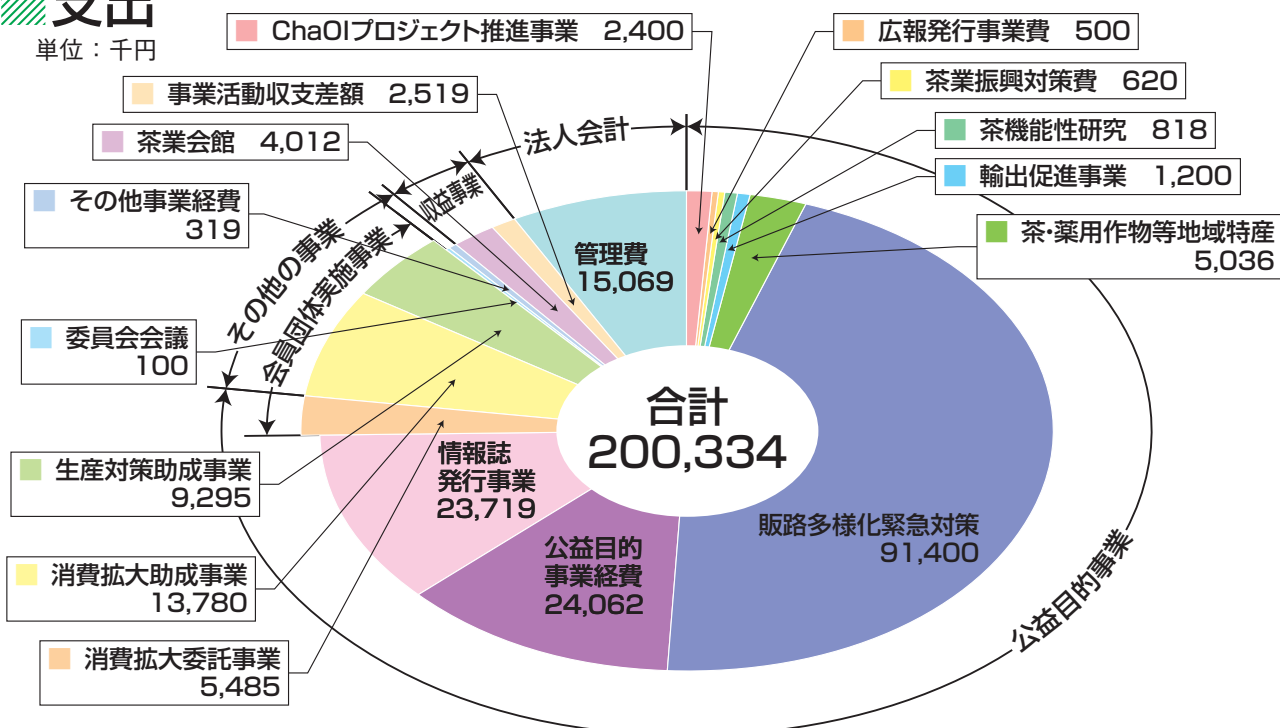
### 収入

単位：千円



### 支出

単位：千円



# 令和3年度事業計画

## 1 公益目的事業

### I 茶と人フロンティア静岡会議推進事業

#### (1) ChaOIプロジェクト推進事業

##### ア しずおか茶需要拡大事業

「静岡茶屋」と異業種の連携拡大による今までにない新たな静岡茶利用の拡大および静岡茶のブランディング化と新たな利用促進を図る。ふじのくに食の都づくり仕事人と連携し、静岡茶の利用を促進し、レストラン、菓子店等での新たな茶飲料や料理のメニュー化、商品化を推進する。

国内外へ、多様な静岡茶の魅力発信を行う。従来にないお茶の活用の提案により、訴求効果を高め、リーフ茶をはじめとするお茶の経済性の向上を図るとともに、時代に合わせた新たな販路開拓を行う。

SNS（Facebook・Twitter等）にて情報発信を行う。

静岡茶の産地、製造法、歴史、効能機能、安全性などを説明するパンフレット等を作成する。

様々な分野から講師を招き、販路開拓WEBセミナーを実施する。

#### (2) 茶業振興事業

##### ア 広報・情報収集、発信事業

本会が実施している事業の告知のため、広報誌を発行する。

##### イ 茶業振興対策事業

茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行い、茶業の振興に資する。

##### ウ 茶の効能研究等事業

静岡県立大学茶学総合研究センターへ調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行う。

茶学術研究会と協働で、茶の効能を広報し、嗜好飲料としてだけでなく、生態調節機能を有する保健飲料としてPRし、静岡茶の更なる消費の拡大と理解に努める。

##### エ 国庫事業「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業」

リーフ茶需要の減少による茶価の低迷で深刻な打撃を受けている「山のお茶」について、消費者や実需者の興味を引き付ける味や香りに特徴のある新製品を開発し、淹れ方や産地の映像、目的の料理に適したお茶の選択情報等を付加した商品化を進めていく。

##### オ 国庫事業「国産農林水産物等販路多様化緊急対策事業」

一番茶の品質の高いリーフ茶について、味覚に鋭敏な若年層に対して、その魅力を広く情報発信するため、県内外の小中学校、特別支援学校等の学校給食での活用を図る。

##### カ 日本茶輸出促進協議会事業

抹茶のモデル地区を各3か所設置し、慣行栽培、有機栽培の比較や、農薬及び成分分析を行う。

##### キ 情報誌・茶業図書の発行事業

###### (ア) 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に

至る茶業全体を視野に入れた編集に心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の充実に努める。

###### (イ) 茶業関連図書の発行と販売について

引き続き「新版 茶の品種」、「茶生産の最新技術（製造編）」、「新改訂版・目で見える茶の病虫害」をはじめとした茶業関連図書の販売に努める。

##### ク 委託事業

###### (ア) 静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るため、静岡県茶商工業協同組合へ委託して事業を実施する。

## 2 収益事業

業界の拠点として、広く茶業者に利活用できるよう明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図る。

## 3 その他事業

### (1) 委員会等開催費

理事会、財務委員会・事業委員会、事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討するとともに、団体間の連絡調整を図る。

### (2) 会員団体助成事業

#### ア 生産対策助成事業（県経済連へ助成）

本県茶業を維持、発展していくため、消費者ニーズに対応した良質茶の生産、基盤整備・改植の推進、品種茶の生産拡大など特色ある茶の生産を積極的に進め、優秀な指導者の育成確保、安全・安心な茶づくりを推進し、静岡茶ブランドの確立を図る。

国内外の消費者に安全・安心な静岡茶を供給するための栽培・製造指導及び地域におけるリーダー（技術指導者、後継者）を育成する各種研修会を開催する。併せて国内外において、静岡茶の販売力強化を図るため、静岡茶をPRするとともに、要望に応じた生産及び商品開発により静岡茶の消費拡大を図るとともに生産者所得の向上に向け取り組むため、静岡県経済農業協同組合連合会へ助成事業を実施する。

#### イ 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成）

静岡茶の普及のため情報の収集・発信を行い、健康的で文化的な食生活と食文化の維持、緑茶の効用や知識の普及、食育の推進等に関する施策を積極的に推進するため、静岡県茶商工業協同組合へ助成事業を実施する。

## 4 その他関連事業

### (1) 静岡茶消費拡大推進協議会

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の下に、オール静岡の体制で、これまで築いた人のつながりを最大限に活用しながら、県外大消費地の大手量販店や茶の商工業組合と連携した販売促進事業を実施する。

・大消費地における静岡茶の販売促進事業



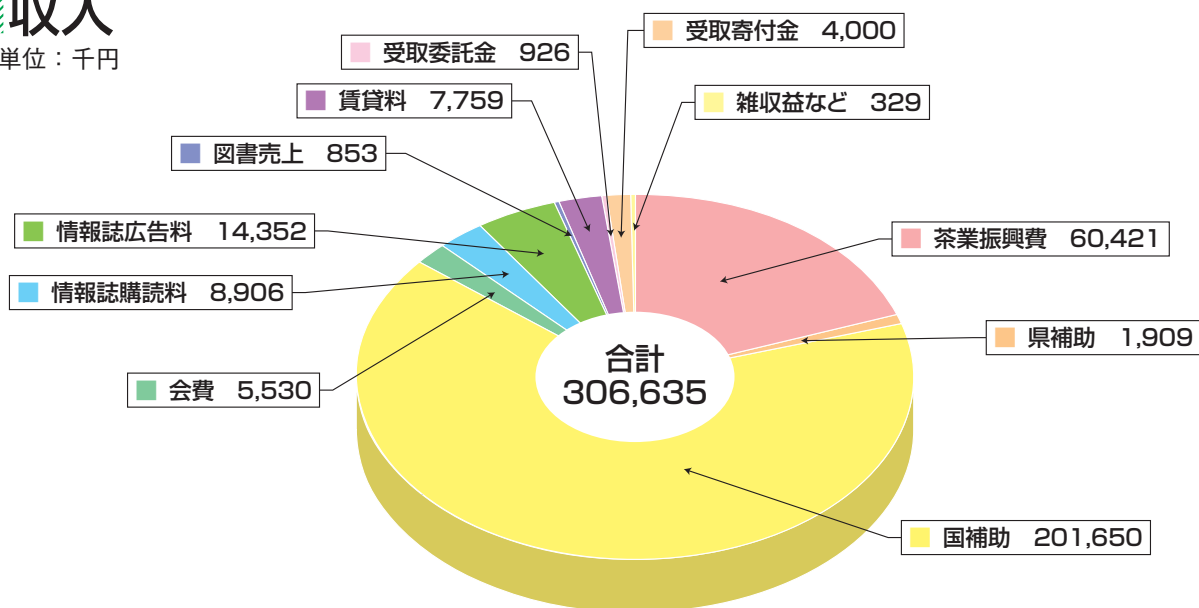
## ◆ 令和2年度決算 ◆

令和2年度事業につきましては、令和3年6月25日(金)に開催した総会において承認されました。

### ■ 皆様の茶業振興費は、このように使われました。

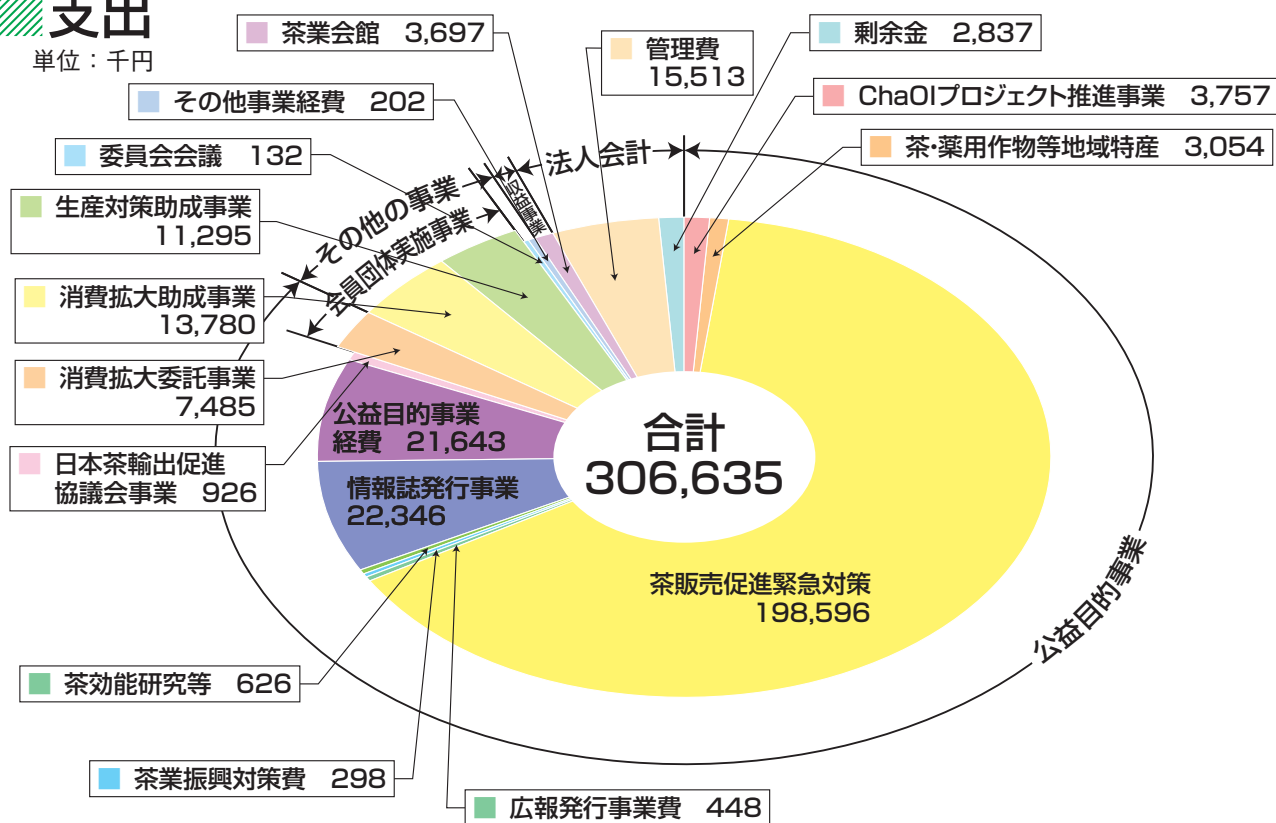
#### 収入

単位：千円



#### 支出

単位：千円



# 令和2年度事業報告

## 1 公益目的事業

### I 茶と人フロンティア静岡会議推進事業

#### (1) ChaOIプロジェクト推進事業

##### ア しずおか茶需要拡大事業

###### (ア) 静岡茶情報発信

水出し緑茶の効能や淹れ方チラシ（10,000部）、静岡茶を紹介する「お茶のしずおか」（10,000部）、ワクワクお茶のたんけん隊短編版（20,000部）を発行した。

###### (イ) 緑茶人間の拡大

県内外・海外へ、多様な静岡茶の魅力発信を行なうため、コミュニティーサイト「Shizuoka Green Tea Guide」への静岡茶屋、ティーツーリズム関連情報の拡充を行うとともに、発信力の高い静岡茶ティーレポーター（日本人、外国人）による情報発信や静岡茶に関するレポートを掲載した。

「Twitter」、「Facebook」、「Instagram」にて静岡茶の魅力を拡散するため、随時更新した。

###### (ウ) 静岡茶でおもてなし

「静岡茶屋」の認定を推進した。令和3年3月末現在95店舗

静岡茶屋認定店舗限定イベントの実施、オンライン意見交換会やZoomを活用した「静岡茶がもっと面白くなる対談シリーズ」のライブ配信を行った。

ふじのくに食の都づくり仕事人と連携し、価値のある静岡茶の魅力を引き出し、飲食店、菓子店等での新たなメニュー化を推進するため、各茶産地の農家や茶商を訪れるフィールドワークやお茶と料理についての勉強会、冷凍蒸し葉の活用検討を実施し、お茶を使った30品のメニューが開発および商品化された。

###### (エ) 需要創出のためのセミナー

###### a 「茶と人フロンティア静岡会議」

「今、お茶が欲しい！Deepなお茶の世界」～女性目線の魅力的なお茶とは～と題し、「今の時代だからお茶」、「カッコ良くお洒落に茶器を活用」の2つを中心に女性経営者3名による鼎談を収録し、編集後ホームページ及びYoutubeにて配信、公開した。

###### b 静岡和紅茶WEBフェスティバル

お茶の多様性を広げ、消費者を巻き込みながら需要喚起や販売開拓につなげるため、ジャパンティーフェスティバルOnline内オープニングセミナー「和紅茶生産者集団：CLUB-Tのまなざし」を一般公開した。（参加者357名）

#### (2) 茶業振興事業

##### ア 広報・情報収集、発信事業

ホームページを随時更新し、本会の活動状況を報告した。

##### イ 茶業振興対策事業

摘みたての新茶を知事に贈呈する「新茶贈呈式」や杉山彦三郎翁顕彰会功績者表彰、茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行った。

##### ウ 茶の効能研究のための奨学寄付

県大茶学総合研究センターにおける調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄付を行った。

##### エ 茶の効能等のPR

最新の茶の機能性・効能等の2課題の特別講演を茶学術研究会会員に向けて動画配信を行った。

##### オ 静岡県茶歌舞伎大会事業

新型コロナウイルスまん延のため、大会を中止した。

#### (3) 国庫事業「茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業」

新たな茶の需要を創出し、和紅茶の商品性を高めるため、二番茶で紅茶を製造する3茶工場の発酵度合いの適切

化や、仕上げを実施する(株)三井農林との調整を進め、消費者に評価される品質良い和紅茶の新規商品に向けた試作を進めたことにより、荒茶の品質向上につながり、令和3年度の商品化が進んだ。

#### (4) 国庫事業「茶販売促進緊急対策事業」

茶の緊急的な販売促進を行うことにより、将来のインバウンド需要や輸出の再開等に対応できる生産・供給体制を維持することを目的に、県内小中学生や北海道小学校、県内保育園、幼稚園、病院、47都道府県の神社等356か所へのお茶試供品の送付や小学生向けのお茶の紹介チラシの作成等を実施した。

#### (5) 日本茶輸出促進協議会事業

日本茶輸出促進協議会からの委託を受けて、輸出向けの抹茶製造の実証栽培を実施した。

#### (6) 情報誌・茶業図書の発行事業

##### ア 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集を心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の向上に努めた。

##### イ 茶業関連図書の発行と販売について

市場のニーズに応え開発された注目の戦略品種等を追加して「新版 茶の品種」や、「新改訂版・目で見える茶の病虫害」をはじめとした茶業関連図書の販売をした。

#### (7) 委託事業

##### ア 静岡茶消費拡大委託事業（県茶商へ委託）

静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るとともに、静岡茶の消費拡大を目的とした宣伝・啓発活動を実施するため、静岡県茶商工業協同組合へ委託事業として実施した。

## 2 収益事業

業界の拠点として、広く茶業者の利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図った。

## 3 その他の事業

#### (1) 委員会等開催費

財務委員会・事業委員会及びあり方検討会等を開催し、諸振興策を検討し、団体間の連絡調整を図った。

#### (2) 会員団体助成事業

##### ア 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成）

近年の生活様式の多様化等により、急須で飲む喫茶習慣に代表される食文化は急速に失われつつあり、行政・生産の団体と協力・連携しながら、静岡茶の普及のための情報の収集・発信を行い、健康的で文化的な食生活と食文化の維持、緑茶の効用や知識の普及、食育の推進等に関する施策を積極的に推進した。

##### イ 生産対策助成事業（県経済連へ助成）

国内外の消費者に安全・安心・良質で多様な静岡茶を供給するための栽培・製造、その他茶情報提供に関する各種研究会を開催した。併せて本県茶業を維持・発展していくため、地域におけるリーダーの育成研修を実施した。また、国内外において静岡茶の販売力強化を図るため静岡茶をPRするとともに、要望に応じた生産及び商品開発に取り組み、静岡茶の消費拡大に努めた。

## 4 その他関連事業

#### (1) 静岡茶消費拡大推進協議会

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の元に、オール静岡の体制で県内外に置いて販売促進事業を実施した。



令和  
3年度

## 令和3年度新茶贈呈

摘みたての瑞々しい新茶を知事に贈呈し、新茶の魅力を発信するために、知事への新茶贈呈式を開催しました。

令和3年5月12日(水) 静岡県庁前



## 令和3年度杉山彦三郎賞の表彰

杉山彦三郎翁顕彰会は、令和3年5月1日駿府城公園マロニエ広場において、慰霊式と功績者の表彰を行いました。

◇茶業振興功労賞（敬称略）

永田憲三（73）、鈴木 篤（64）、平出裕之（60）



## 令和3年度茶業功績者の表彰

本県茶業の発展向上に顕著な功績のあった方々や集団を表彰し、茶業の振興に資することを目的とする功績者の表彰を令和3年6月25日に行いました。（敬称略）

枝村康生（68）、堀内和清（73）、一言藤夫（68）

令和  
2年度

## 茶と人フロンティア静岡会議推進事業オンラインでの需要喚起セミナーの開催

お茶に関わり活躍している3名の女性経営者により、「今、お茶が欲しい！Deepなお茶の世界」をテーマに、女性目線のお茶の魅力について自由に語ってもらい、新たな需要拡大や興味を創出することを目的に鼎談を実施し、配信、公開しました。（65分作品をテーマ毎5本に分けて2月19日～配信。）



【配信動画①～⑤】  
（順次つづけて観ることができます。）



令和3年1月13日(水) 日比谷パレス

## 静岡茶屋対談オンラインの開催

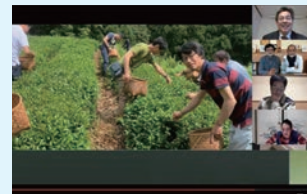
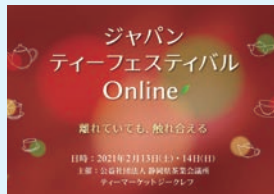
消費者が茶業者と直接対面し、お茶を購入する機会が減ってしまった状況を受け、自宅や移動中にお茶話を楽しんでいただけるよう、「静岡茶がもっと面白くなる対談シリーズ」をライブ配信し、YouTubeへ公開しました。茶生産者や茶商、お茶を扱う料理店、日本茶インストラクターなど、多様な方にご出演いただき、様々な視点から見るお茶の楽しみ方などをお話いただきました。



令和2年10月20日(火)、11月25日(水)、12月26日(土)

## ジャパンティーフェスティバルOnline

お茶の多様性を広げ、消費者を巻き込みながら、幅広い世代がお茶を通じた時間を共有し、楽しむ機会をつくり、需要喚起や販路開拓に繋げるため、ジャパンティーフェスティバルOnline内オープニングセミナー「和紅茶生産者集団：CLUB-Tのまなざし」を一般公開しました。（参加者357名）



令和3年2月13日(土)、14日(日)

## 「静岡茶屋」と料理人によるプロジェクト～新たなお茶を使ったメニュー開発～

令和2年度より、お茶の生産、製造に関わる「静岡茶屋」と「ふじのくに食の都づくり仕事人」が連携し、メニュー開発などに取り組んでいます。お茶と料理の勉強会やフィールドワークを重ね、2月には、30品目の新たなメニューが生まれ、提供が始まりました。

